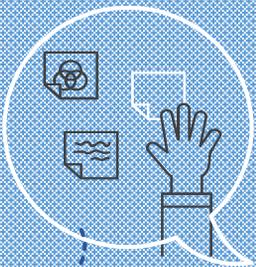


だからこそ。今こそ。

初任者研修応援号「響む」^{とよ}@東信教育事務所だより



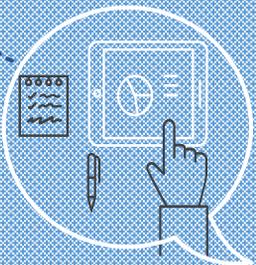
初任の先生方は、大卒1年目の方も、講師や民間企業等の経験のある方も、今だからこそこの気持ちで、今だからこそできる機会の中で、今しかない時間を大切に積み重ねています。そうやって、教職に身を置く喜びや、教職への自覚、教育に対する信念などを培い、自らの教師としての理想の姿に向かって、一步ずつ前に進んでいます。



📍 校内研修 (メンター方式と拠点校方式)

初任者研修の多くの時間は校内での研修です。主に、授業づくりや自己課題に係る内容を、初任研指導教員や初任研メンターチームを中心に、校内の全職員による協力的な指導体制のもとで研修していきます。

本年度より、多くの学校でメンター方式による初任者研修が実施されています。各学校では、OJT研修により初任者が多くの先生方に指導や助言を受けることができるよう計画されています。



📍 校外研修 (教育事務所研修、市町村教育委員会研修等)

今年度から、ICT活用の指導力向上に向けた内容が含まれるようになりました。ICT活用の基礎基本の理解や実践を基にした意見交換など、所属校におけるこれからの推進力となるべき力を培っています。

また、同期が顔を合わせて語らえる交流の場としても充実した時間となり、初任の先生同士が互いに積極的な関わりを育んでいます。



style.1

いい距離感で、
いられること。

中学校 美齊津 択斗 先生



「7年生の学級担任をもたせていただけていることは、とてもありがたい。でも、自分はまだ大学を出たばかりで、生徒との年齢が近いので、距離感も近すぎてしまわないか心配している。教師として、生徒とのちょうどいい距離感を保ちながら、いい関係でいたいと思っている」

生徒との距離感を考えながら取り組んでいる美齊津先生の授業は、声や言葉遣いが心地よい。ゆっくりと置いていくような調子で、あわてず、少ない言葉で、ひとつひとつ節目をつくりながら丁寧に生徒へ届けている。



style.2

できた。自分はすごい。
そう思えるように。

小学校 佐藤 楓 先生

佐藤先生の立ち姿はまっすぐだ。この授業で実現したいことや、この時間に育みたい力をはっきりと見極められているからだ。そして常に、子どもが何事にも自信をもって取り組むことができるように、子どもが楽しいと感じられるようにと、教材を工夫したり、子どもの気持ちに寄り添った言葉のかけ方を考えたり、そのための努力は惜しまない。けれども、「私はずい、指示をしたくなってしまっ」と、自分の姿を省みることもしばしば。

そんな佐藤先生を励ますのは、「こんなにできるようになった」と子どもと共に喜びあえる毎日。

手応えを、仲間へつないで、 また、次へ。

手づくりの教具がお得意な河口菜椰先生は、小学校1年生の担任。今日は、道徳「かぼちゃのつる」で使った掲示物を持って初任研でのグループ討議にやってきました。

偶然、隣席になった金井貴大先生も1年生の担任。「今度、かぼちゃのつる、やるんですよ」と興味津々。かぼちゃのイラストから伸びるのは、ビニール紐でできた蔓。なるほどなるほどと、まじまじと眺めていると…

「よかったらどうぞ。使ってください」と河口先生。



時は過ぎて、今度は金井先生の道徳「にわのことり」。手づくりのかぶり物でミソサザイとやまがらの二羽のロールプレイ。二羽の友情のシーンは、「こういうのって、やっぱりいいなあ」って、教室を笑顔と幸せと温かきで満たして拍手喝采。

次の初任研。ミソサザイとやまがらの二羽は、金井先生から河口先生のもとへ返礼となり次の教室に。そして、ロールプレイの手応えは、また別の学校の1年生担任の町田一先生に。



道徳でのロールプレイに少し不安な町田先生は、金井先生の手応えを参考に、迷いを払っていざ実践。「ジャングルジム」の授業では、くまさんとねこさんの絵を首掛け札にして演技。役を交代して3回、4回…まだまだやりたい、体験して味わいたいと前のめりになる子どもたちの姿に驚く町田先生。

…そしてその絵札は、成果と共に金井先生のもとへ。



河口先生、金井先生、町田先生は、学年が同じだけではなくて、実は、研修コーディネーターも同じ先生。

この連携の影の立役者になっていたのが、研修コーディネーターの櫻井宏子先生。3人それぞれの不安や迷いに親身に寄り添い、メンターチームと協力体制で支え、互いに授業の様子を伝えてくれました。そして、3人が互いの授業を見合いながら研修できるようにつないでくれています。



すべては、かぼちゃのつるから。
おや？河口先生、また何かお作りですか？



初任者がいるからこそ、見えることがある。沸きおこされるものがある。

先輩が語る、初任研OJT。



初任研メンター方式では、OJT研修として、初任者が、所属する学年や教科会のみならず、特設委員会や係会、各種研究部会等を計画的に渡り歩いて研修をしながら、多くの先生方と関わり学び合える機会を設けています。



授業づくりの研究会。ディスタンスを保った円の中に、今日は初任の先生も加わります。飛び入りなので少々遠慮がちな初任の先生にも投げかけて、新鮮な考えを尋ねる先輩。

「正直、よくわからなくて…」と本音を引き出し、気持ちを共有して学び合う。

そして、研究会を終えれば、給食の唐揚げの話で一層ディスタンスを縮める。



こちらのメンターチームは、初任の先生を含めて、学年や経験年数が異なる5人構成。今日はさらに5人を加えて初任の先生の公開授業を振り返る拡大グループ研究会。

「初任の先生から、この方法いいですね、やってみます。と言われると、やっぱりうれしい気持ちになるし、自分の自信にもなります」

と、メンターリーダーは日々を振り返る。伸びしろがあって貪欲な姿に刺激を受けて、先輩だってまだまだ腕を磨く。

また別のメンターチームでは、「授業を通して、子どもの思いや考えを大切にすることって、まずは子どもの言葉をしっかりと最後まで聞くことが大事なんだなって思いました。初任の先生は、そんな基本的なことをしっかりとやっていて、私も自分を省みることができました」と、全校研究主任は語る。

経験は浅くても、だからこそ、今できることに懸命になれる初任の先生は、少し先を進む先輩たちに、自分にはないものを教えてくれたり、忘れかけてしまったものを、もう一度気づかせてくれたりする存在なのかもしれません。

style.3

2年目の先輩 中学校 岩崎 有里 先生

「7年目は副担任として見ていた分、今年是一年間の見通しはもてています。けれど実際に学級担任になってみると、本当に難しいことだらけです。

毎日のホームルームや学級活動など、見るのとやるのとでは大違いです。でも、楽しみながら頑張っています」





だからこそ。
今こそ。



授業参観や授業公開を通じた授業力向上研修。自己課題や目標を追究する教師力向上研修。その他、数々の研修を重ねてきました。初任の先生方は、研修で集まれたときには、同期と肩を並べて悩みや課題を共にしながら、熱く実践を語り合い、輝きを放っています。それはきっと、「先生！」と子どもたちから呼ばれることに、教師としての実感を噛み締めながら、毎日ひたむきに重ねている努力によって、磨き込まれていく姿が放つ輝きなのでしょう。

初任研で集まる同期は、もしかすると最後の同級生なのかもしれません。そしてまたいつか、今度は同じ学校で出会う仲間となり、力を合わせて学校を支える同僚となるかもしれません。今、同じ立場として語り合える仲間とのこの関わりが、いつか必ず先につながるものになっていくという期待を込めて、たく強いつながりにしてほしいと願っています。

そして、多くの先生方に支えられていること、子どもたちに力をもらっていること、自分が必要とされ、期待されていることに感謝の気持ちを持ちながら、その内容も、そのための時間も、この今しかない研修の一年間を大切にしたいと思っています。自分のこれからの学び方や、周りの先生方との関わり方や、社会人としての生き方もすべて含めて、この一年間が起点となって形作られていくはずです。

さあ、深呼吸して、共に前へ進みましょう。



年が明けて、2月7日は、初任者研修一年間のまとめとなる「1年次プログ्रेस研修」です。少し時間をかけて一年間を振り返り、2年目につながる成果と課題をまとめていきましょう。

